

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成25年1月24日 (2013.1.24)

【公表番号】特表2012-520120(P2012-520120A)

【公表日】平成24年9月6日 (2012.9.6)

【年通号数】公開・登録公報2012-035

【出願番号】特願2011-554022(P2011-554022)

【国際特許分類】

A 6 1 F 2/44 (2006.01)

A 6 1 B 17/56 (2006.01)

【F I】

A 6 1 F 2/44

A 6 1 B 17/56

【手続補正書】

【提出日】平成24年11月27日 (2012.11.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

a) 2つの隣接する棘突起間の、標的棘突起間の間隙に配置するために、スペーサーとして機能するように寸法決定され、構成される、長尺本体と、

b) 前記長尺本体の遠位端に結合される、遠位アンカーと、

c) 前記遠位アンカーから離間する第 1 の位置と前記遠位アンカーに接近する第 2 の位置との間で前記長尺本体に沿って長手方向に移動するように装着され、前記遠位アンカーに連動して前記 2 つの隣接する棘突起を圧迫するように適合される、近位アンカーと、を含む、脊椎インプラント。

【請求項 2】

前記近位アンカーが、軸方向に摺動可能なプレートを含み、かつ、前記遠位アンカーと前記近位アンカーとが接近する際に、前記棘突起に係合するための、円周方向に離間して遠位で対向する複数のスパイクを含む、請求項 1 に記載の脊椎インプラント。

【請求項 3】

前記長尺本体が、解剖学的骨構造との係合を容易にするために、少なくともその遠位部分上に螺子山を備える、請求項 1 に記載の脊椎インプラント。

【請求項 4】

前記長尺本体および近位アンカーが、前記第 1 の位置と前記第 2 の位置との間の、前記長尺本体に沿う前記近位アンカーの長手方向移動を容易にするために、相互に螺合される、請求項 1 に記載の脊椎インプラント。

【請求項 5】

前記長尺本体が、少なくとも部分的に中空であり、かつ、組織の内部成長を可能にするための複数の開口を含み、また、前記 2 つの隣接する棘突起を、それらの間へ挿入する間、徐々に開離させるように構成される、テーパヘッド部分を備える、請求項 1 に記載の脊椎インプラント。

【請求項 6】

前記遠位アンカーが、拡張した状態、または展開した状態で備えられる、請求項 1 に記載の脊椎インプラント。

【請求項 7】

前記遠位アンカーが、収縮した状態、または収容した状態で備えられる、請求項 1 に記載の脊椎インプラント。

【請求項 8】

前記遠位アンカーが、隣接する棘突起に係合するように適合される、複数の放射状に展開可能なブレードを含む、請求項 1 に記載の脊椎インプラント。

【請求項 9】

前記長尺本体が、前記複数の放射状に展開可能なブレードが、その展開の前に収容される内部チャンバを備える、請求項 8 に記載の脊椎インプラント。

【請求項 10】

前記複数の放射状に展開可能なブレードが、共通の環状枢軸部材にヒンジによって連結される、請求項 8 に記載の脊椎インプラント。

【請求項 11】

カム機構によって、前記複数の放射状に展開可能なブレードを展開するように適合される、内部プランジャーをさらに含む、請求項 8 に記載の脊椎インプラント。

【請求項 12】

前記遠位アンカーが、テーパヘッドを含み、前記テーパヘッドが、その中立的状態で、前記長尺本体の直径より大きい最大直径を有し、かつ、前記遠位アンカーと前記近位アンカーとが互いに接近する際に、前記棘突起に係合するための、円周方向に離間して近位で対向する複数のスパイクを有する、請求項 1 に記載の脊椎インプラント。

【請求項 13】

前記テーパヘッドが、前記ヘッドが前記 2 つの隣接する棘突起間に挿入される際に、放射状に拡張した状態と放射状に圧迫された状態との間を運動するように適合され、構成される、追従スカート区分を有する、請求項 12 に記載の脊椎インプラント。

【請求項 14】

前記ヘッドの前記追従スカート区分が、前記放射状に拡張した状態に付勢される、円周方向に離間する複数のヒンジによって連結される複数のブリーツを含む、請求項 12 に記載の脊椎インプラント。

【請求項 15】

a) 2 つの隣接する棘突起間の、標的棘突起間の間隙に配置するために、スペーサーとして機能するように、寸法決定され、構成される長尺本体であって、前記 2 つの隣接する棘突起を、それらの間への挿入の間、徐々に開離させるように構成される、テーパヘッド部分を有する、長尺本体と、

b) 前記長尺本体の遠位端に結合される遠位アンカーであって、前記 2 つの隣接する棘突起の第 1 の側面に係合するように適合される、複数の展開可能なブレードを有する、遠位アンカーと、

c) 前記遠位アンカーから離間する第 1 の位置と前記遠位アンカーに接近する第 2 の位置との間で前記本体に沿って長手方向に移動するように装着され、前記 2 つの隣接する棘突起の第 2 の側面に係合するように適合される、近位アンカーと、

を備える、脊椎インプラント。